

石濱博之（上越教育大学）

「中学校入学以前の英語学習経験の有無と聴解力との関係」

キーワード： 英語学習経験の有無、聴解力

本発表は、アンケート調査の報告である。

【はじめに】

現在、2002年から施行される学習指導要領で「総合的な学習の時間」の中で国際理解教育の一環として英語活動が実施されている。現実には、2002年以前に、既に中学校入学以前に何らかの形で英語を学習している子どもは多いだろう。

本発表は、「総合的な学習の時間」が開始される前に実施した調査報告である。その調査の意図は、中学校において中学校入学以前に英語を学習している学習者が、英語学習を経験していない学習者と聴解力においてどのような相違があるかを提示・検討するものである。

【先行研究】

先行研究の結果によれば、4技能すべてにおいて早期英語教育を経験した学習者がそうでない学習者よりすぐれていると言われている。具体的には、児童英語教育学会の研究グループによる「早期英語学習経験者の追跡調査 第I報、第II報、第III報、第IV報」（1986、1987、1988、1989）「学習開始年齢が言語学習に及ぼす影響 第I報、第II報、第III報、第IV報」（1990、1991、1992、1993）で調査・報告されている。

石濱（2000）は、今回の予備調査として同様の形式で公立中学校1年生68名を被験者として調査を実施した。その結果「学習経験の有無が中学性の聴解力に影響を及ぼしているだろう」とした。また、英語活動を体験した児童の「聴解力」の伸びに関しては、時間の経過と共に子どもの聴解力は伸張する可能性があるとした（2004）。

【研究主題： 調査の目的】

本研究は、聴解力に関する追実験として、中学校入学以前の英語学習経験の有無が聴解力に影響を及ぼしているかについて調査・検討することを目的としている。

【研究主題の検証： 調査の内容】

1. 素材： 中学1年生用－『CDつき児童経験クリアもんだいしゅう』（成美堂）模擬試験3級
中学2年生用－『CDつき児童経験クリアもんだいしゅう』（成美堂）模擬試験2級
中学3年生用－『児童英検1・2級スーパードリル』（アルク）模擬試験1級
2. 留意点： 児童が当てずっぽに答えるのを避けるために、「わからない」という項目を設けた。
各問に対して、テープを使って2回設問を示した。
3. 実施日： 2000年12月から2001年1月の期間
4. 被験者： 秋田県内公立中学校2校、愛知県内公立中学校2校
中学校1年生から3年生まで、約1500名（各学年500名程度）
5. 処理の方法： 独立したt検定

【結果と考察】

中学校入学以前に英語学習を経験した学習者が、そうでない学習者より聴解力テストの総合計でよかった（t検定で有意差あり）。それは、経験の有無と聴解力に関係があるだろうと考えられる。

なお、聴解力テストの内容や結果についての詳細は、当日提示したい。